

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

北海道公衆衛生学雑誌Vol.36 No.1 特別付録 2022 p27

在宅の暮らしを支える訪問看護師が大切にしていること

牧野志津,塩川幸子,山内まゆみ,井戸川みどり,金田豊子,平塚志保,
平瀬美恵子,奥田久美,澤田裕子

0-2 在宅の暮らしを支える訪問看護師が大切にしていること

○^{まきのしず}牧野志津 塩川幸子 山内まゆみ (旭川医科大学医学部看護学科)

井戸川みどり 金田豊子 平塚志保 平瀬美恵子 奥田久美 澤田裕子 (旭川医科大学病院看護部)

【背景・目的】

C大学は看護学科と大学病院看護部の連携・協働のもと、看護職のキャリア開発や生涯学習を支援し看護の質の向上を図ることを目的として、4部門から成る看護職キャリア支援センターを設立した。地域看護職支援部門では、地域包括ケアシステムの推進において病院と地域の看護職の相互理解に基づいた連携が重要と考え、北海道内の訪問看護師を対象に連携に関するニーズ調査を行った。本研究の目的は、訪問看護師の大切にしていることを明らかにし、病院看護師と訪問看護師の連携促進に向けた示唆を得ることである。

【方法】

2020年2月、北海道の全訪問看護事業所536か所のうち管理者の了解が得られた94か所の訪問看護師438名に郵送法で無記名自記式質問紙調査を行い、288名から回答を得た(回収率65.8%)。そのうち、訪問看護師が大切にしていることについて自由記載があった152名の記述を分析対象とした。分析方法は、自由記載から訪問看護師が大切にしていることを表す記述を抽出しコード化、意味内容の類似性からサブカテゴリ、カテゴリを生成した。倫理的配慮として、旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号:18232)。

【結果】

対象者の平均年齢は 47.4 ± 8.7 歳、訪問看護経験年数の平均は 6.5 ± 5.8 年であった。分析の結果、9カテゴリ、39サブカテゴリが生成された。以下カテゴリを〈 〉で示す。

訪問看護師は、〈安心・安全に生活できるように支援する〉、〈在宅生活継続のための体調の維持管理と苦痛をコントロールする〉、〈笑顔で穏やかに家で過ごす時間を支える〉ことを大切にしていた。関わりの中で〈利用者・家族の価値観・希望・思いをくみ取る〉、〈利用者・家族の生き方に寄り添う〉ことで〈その人らしく住み慣れた家での暮らしを支える〉ことを目指していた。そのために〈生活の場に入らせていただく姿勢でコミュニケーションを取り信頼関係を築く〉、〈これまでの生活を多職種で共有し連携調整する〉ことに重きを置いていた。さらに、〈専門職として内省しケアの質向上に努める〉姿勢を大切にしていた。

【考察】

訪問看護師は、住み慣れた場所でその人らしい暮らしを支えるために安全で安心な生活を基盤とし、在宅生活継続のための体調維持管理と苦痛をコントロールする医療的介入を行い、利用者と家族を一つの単位として中心に据え、笑顔で穏やかに過ごす時間を大切にしていた。そして、生活の場に入らせていただく姿勢でコミュニケーションを図り信頼関係を構築するために日々内省し、多職種協働の視点を踏まえよりよいケアを目指していたことが示された。高度急性期医療を担う大学病院の看護師と、利用者・家族の生活を中心とした訪問看護師の看護を提供する場は異なる。訪問看護師が大切にしていることを知り病院看護師が在宅の理解を深めることは看看連携の基盤づくりとなる。本部門では地域の訪問看護師と大学病院の看護職が参加する看看連携セミナーを開催しており、研究結果を研修企画に活用し看護職同士の相互理解を進めていきたい。